

(四) 文部省體操教員養成講習會

私立

(五) 日本體育會體操學校

(六) 大日本武德會武道專門學校

(七) 藤村女子體操音樂學校

(八) 二階堂女子體操塾

(九) 中京高等女學校家事體操專攻科

道廳府縣郡市ニ於テ當該管内ノ學校其ノ他青年團等ノ體育運動ヲ指導監督スル者ハ各地方ニ於テ設置セラレ其ノ數未タ甚タ多カラス一九二四年六月文部省ノ調査セシ成績ニ據レハ道廳府縣ニ於テハ東京府以下二十三府縣ニ二十六名、郡市ニ於テ二十八名ヲ算ス。其ノ他各府縣ニ設置セラレタル學校衛生技師モ亦體育運動ニ對シ指導監督ノ位置ニ立テリ。

四、社會體育運動ノ概況

學校外ニ於ケル一般社會ノ體育運動ハ之ヲ學校内ニ於ケルモノニ比スレハ尙ホ幼稚ノ域ヲ脱セサリシモ近時獎勵ノ結果青年團、少年團、官公衙、會社銀行、工場等ニ於テハ各種ノ運動團體ヲ組織シ主トシテ庭球、

擊劍、柔術、トラックエンドフィールド競技、野球、角力、水泳、登山等ノ運動ヲ實行シツツアリ。而シテ是等諸團體並ニ團員ノ數及ヒ職業團體ノ組織、各種運動場ノ設置狀況等ニ關スル記述ハ内務省衛生局ヨリノ報告ニ讓リ茲ニハ之ヲ省略ス。

各種運動ノ競技會ハ各地方ニ於テ近年著シク頻繁ニ開催セララルニ至リ學生、生徒、實業團、青年團、官公吏、陸海軍人等ノ之ニ參加スルモノ著シク其ノ數ヲ増シ、競技ノ「レコード」モ驚クヘキ進歩ヲ遂ケツツアルヲ以テ、其ノ歐米ノ「レベル」ニ近接スルコトモ遠キ將來ニアラサルヲ信ス。

國際競技會ニ關シテハ本邦ヨリ代表選手ヲ派遣セシコト左ノ如シ。

世界オリンピック競技大會
一九一二年 ストックホルムニ於ケル第五回大會
派遣選手(トラックエンドフィールド競技) 二名
政府代表 嘉納治五郎

一九二〇年 アントワープニ於ケル第七回大會
派遣選手(トラックエンドフィールド競技、水上競技及庭球) 一五名
政府代表 嘉納治五郎

一九二四年 バリニ於ケル第八回大會
派遣選手(トラックエンドフィールド競技、水上競技、庭球及ビ「レスリング」) 一八名

第五回及ヒ第七回大會ニ參加シタルトキハ我カ選手ハ點數ヲ獲ルニ至ラサリシモ第八回大會ニ參加スルニ際シテハ大ニ盡力シ選手派遣團體タル大日本體育協會(Japan Amateur Athletic Association)ニ對シ初メテ政府

ヨリ六萬圓ノ補助ヲ與へ、又國民ノ後援モ大ナルモノアリ。日本代表選手ハ水上競技ニ於テ八點、跳躍ニ於テ一點、計九點ヲ獲得シタリ。又點數ヲ得ル能ハサリシ選手モ前二回參加ノ場合ニ於ケル成績ニ比スレハ著シキ進歩ヲ示シタリ。此ノ成績ハ派遣選手ノ數甚タ少ク、競技運動ノ發達カ列國ニ比シ後レ居レル我國ノ現狀ニ於テ將來運動ノ普及改善ニ伴ヒ相當ノ成績ヲ示シ得ルノ自信ヲ得セシメタルモノナリ。

極東選手權競技大會

極東選手權競技大會ハ二年毎ニ支那、フィリッピン及ヒ日本ノ諸國ニ於テ開催セララルル極東諸國ノ選手權競技大會ニシテ日本代表選手ハ左ノ諸會ニ參加シタリ。

- 一九一五年 上海ニ於ケル第二回大會
- 一九一七年 東京ニ於ケル第三回大會
- 一九二一年 上海ニ於ケル第五回大會
- 一九二三年 大阪ニ於ケル第六回大會

大阪ニ於ケル大會ニ於テハ 日本皇帝陛下ハ體育獎勵ノ思召ヲ以テ天皇賜盃ヲ下賜セラレ、日本内務、文部兩大臣又優勝盃ヲ五種競技及ヒ一哩リレー競技ニ對シ授與セリ

五、女子體育運動ノ概況

日本ニ於ケル女子ノ體育運動ハ歐米ノソレニ比シ又男子ニ比シ從來後レ居リ、女子ノ運動ハ著シク制限セラレ居タリ。而シテ日本女子ノ健康狀態及ヒ身體發育ノ男子ニ比シ不良ナルコトハ最近醫家、教育家ノ注意ヲ惹キ女子ノ體育振興ノ聲ハ著シク高クナレリ。文部省ニ於テ種々ノ方法ヲ講シテ學校及ヒ一般社會ノ女子體育ノ改善ヲ促シ、國民ノ自覺漸ク高マリテ最近日本女子ノ體育運動ハ頓ニ隆盛ノ域ニ向ヘリ。現今學校ニ於テハ正課運動トシテ體操、遊戲及ヒ教練行ハルルノ外、課外運動トシテ庭球、バスケットボール、バレエボール、インドアベースボール等ノ球技盛ニ行ハレ又ダンシング、表情遊戲、スケートチング、水泳、トラックファイルド競技等漸次女子ノ間ニ普及シ來レリ。女子ノ運動競技會モ此ノ兩三年屢開催セラレ、一九二三年ニハ極東選手權競技大會ニ初メテ日本女子ノ參加アリ、良好ナル記録モ生レツツアリ。文部省ニ於テハ女子ノ體育運動ノ普及獎勵ニ力ヲ致スト共ニ其ノ堅實ナル進歩ニ對シ常ニ指導監督ヲ怠ラス而シテ最近二十一年間ニ於テ日本ノ女生徒カ著シク其ノ身體發育ヲ進メタルコトハ一九二二年文部省學校衛生課ノ調査セル統計ニ(8、參照)ヨリ明瞭トナレリ。

六、夏季體育的施設ノ概況

夏季休暇中ニ於ケル生徒兒童ノ保健並ニ訓練ニ關スル施設ハ教育者及ヒ學校醫ノ獻身の努力ニヨリ近時年ヲ逐フテ増加シツツアリ、一面文部省ハ一九一七、一九一八年頃ヨリ此ノ施設ヲ獎勵指導シ時々全國的ノ調

查ヲ行ヒ其ノ成績ヲ發表シ且ツ毎年課員數名ハ全國各地ニ出張シテ視察指導ヲ爲シツツアリ。

(一) 年度別施設數

今最近六ケ年ニ於ケル全國夏季體育的施設數ヲ表示スレハ左ノ如シ(文部省學校衛生課ノ調査ニヨリ)。

一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
七七二	一、三七九	二、一三二	三、〇三三	四、三八三	五、六四一

(二) 施設ノ種類

日本ニ於テ行ハルル夏季體育的施設ノ種類ヲ列舉スレハ左ノ如ク其ノ數甚々多シ。

林、聚落、海濱聚落、溫泉聚落、夏季聚落、水泳、早起會、登山、旅行遠足、武道、體操、競技等
是等ノ中主トシテ身體虛弱者ノ爲ニ行ハルルモノハ林間、海濱、溫泉等ノ聚落ナリ。

(三) 主催者

夏季體育的施設ノ主催者トシテハ小學校、中等學校等ノ學校カ其ノ大多數ヲ占メ之ニ次クヲ府縣郡市町等ノ教育會、市、區、町等ノ自治團體、日本赤十字社、青年會、少年會等ノ私設團體トス。地方自治團體ノ主催スルモノハ以前ハ僅少ナリシカ此一、二年ニ於テ漸次増加シ從テ資力豊富、規模大ナルモノ續出スルニ至レリ。

(四) 成績

夏季體育的施設ノ成績ハ其ノ身體方面ニ於テモ將又ソノ精神方面ニ於テモ甚良好ナルハ主催者及ヒ參加醫師ノ多數ノ報告ニヨリ明ナリ。而シテ文部省ニ於テハ其ノ内容ヲ十分ニ改善シ其ノ成績ヲ一層良好ナラシムルコトニツキ最近特ニ力ヲ致シツツアリ。

七、冬季體育的施設ノ概況

冬季體育運動ハ近年著シク普及セリ就中一九一九年文部省カ一道廳二府二十縣ニ亘リ調査セル成績ニヨレハ男子中等學校ノ雪多キ地方ニ在ルモノニ於テハスキー、スケーティング、武道寒稽古、雪中行軍、雪中登山、兔狩リ、雪合戰等盛ニ行ハレ、雪少キ地方ニ在ルモノニ於テハ蹴球、野球、庭球、トラツクエンドフィールド競技盛ニ行ハル次ニ女子中等學校ノ雪多キ地方ニ在ルモノニ於テハ、弓術及ヒ體操寒稽古、スキー、スケーティング、雪中遠足、羽根つき等盛ニ行ハレ、其ノ雪少キ地方ニ在ルモノニ於テハ體操、弓術寒稽古、ローラスケーティング、球技、羽根つき等行ハル、小學校ニツキ調査セル結果ハ中等學校ニ於ケル狀況ト大差ナシ。

尙ホ高等ノ諸學校ニ於テハ東京帝國大學、第一高等學校、早稻田大學、慶應義塾大學、學習院等ヲ初メトシ各大學、專門學校ノ校友會運動部ニ於テスキー、スケーティング、冬季登山等盛ニ行ハレ一九二四年十二月二十五日ニハ東京帝大其ノ他ノ官私立大學、專門學校運動部、草津、飯山等ノ地方スキー部等ニヨリ日本冬

季スポーツ協會成立セリ、又日本ノ最大競技協會タル大日本體育協會(The Japan Amateur Athletic Association)ハ數年來全日本スキー選手權競技會ヲ主催シ好成績ヲアケツツアリ。

スキー場ハ近年著シク其ノ數ヲ増シ年々新スキー場續出シ地方青年、生徒ニヨリ利用セラルルノミナラス暖地ノ學生、青年ノ之ニ赴キテ練習スルモノ激増シツツアリ。

乙、身體虛弱者ノ監督養護

一、學校内ニ於ケル醫學的監督及ヒ教授訓練上ノ取扱

文部省ハ一九二〇年七月省令ヲ以テ學生、生徒、兒童身體檢查規程ヲ改正シ心身ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ身體檢查票ニ記入シ以テ醫學的監督及ヒ教授訓練上ノ取扱ニ便セシメタリ。就中身體虛弱者トシテハ(一)發育榮養共ニ不良ナル者、(二)貧血、(三)腺病及ヒ腺病質、(四)佝僂病及ヒ佝僂病質、(五)神經性體質、無力性體質、胸腺淋巴性體質等ノ異常體質者ナリ。尙文部省ハ一九二〇年二月省令ヲ以テ學校醫職務規程ヲ改正シ特ニ身體虛弱者ニ對スル醫學的處置ヲ規定セリ。

一九二四年四月文部省カ全國ニ亘リテ調査セル成績ニヨレハ身體虛弱兒童ニ對シ小學校内ニテ特殊取扱ヲ爲セル學校ハ總數千三百十五校ヲ算セリ。而シテ全國各府縣ヨリ文部省ニ報告セル虛弱兒童ノ數ハ全國平均ニ於テ男五・〇%女五・一%ナリ。是等虛弱兒童ノ取扱方法トシテハ(一)身體虛弱者ニ對スル特別學級ノ編制

(Open air class) (二)智能學科ノ負擔輕減、(三)體育運動ノ輕減免除、(四)榮養上ニ於ケル注意、(五)家庭ト學校トノ聯絡ヲ密接ナラシムルコト、(六)日光浴、空氣浴、溫泉浴等ノ積極的衛生法ヲ講スルコト等ニシテ、各學校ニ於テ將來ノ計畫トシテ考慮セラレ居ルモノハ(一)學校ニ於ケル設備ノ改善、(二)教授法ノ研究改善、(三)常設開放(林間、海濱)學校ノ設置、(四)休暇聚落ノ改善普及、(五)特別學級ノ編制、(六)學校給食、(七)學校診療所ノ設置、(八)學校看護婦ノ設置(九)家庭連絡、學校醫及ヒ教員ノ虛弱兒童養護上ノ知識向上、(十)衛生教育(health education)ノ普及徹底、(十一)身體檢查ノ改善、(十二)種々ナル健康法ノ應用等ナリ。

二、學校ニ於ケル施設

(一) 休暇聚落等夏季ニ於ケル特殊施設

近時虛弱兒童養護カ教育上及ヒ國民保健上重要ナルコトカ著シク一般ノ注意ヲ喚起シ、之カ救濟策トシテ教育者及ヒ學校醫カ先ツ一齊ニ着手セシハ前項ノ夏季體育的施設ノ條下ニ記述セシ休暇聚落ノ施設ナリトス。休暇聚落ハ近來非常ナル進歩ヲ爲シ前述夏季體育的施設ノ中ニ述ヘタル休暇聚落ノ大多數ハ身體虛弱者ノ爲ニ催サレタルモノナリ。

(二) 常設開放學校

林間學校、海濱學校等ノ施設ハ目下尙吾人ノ希望スル域ニ達セサルヲ遺憾トス。即チ現今日本ニ於ケル常設開放學校ハ一九一九年神奈川縣茅ヶ崎ニ設置セラレタル私立白十字林間學校、一九二三年大阪市ノ設置セル濱寺林間學校、一九二四年十一月日本赤十字社千葉縣支部ノ設置セル富浦海濱學校アルノミ。然レトモ目下大都市ノ教育當局者ハ此ノ種ノ學校設置ニ努力中ナルヲ以テ近キ將來ニ於テ全國ノ大都市ハ少クトモ一校ノ常設開放學校ヲ有スルニ至ルヘシ。

(一九二四年十一月三十日記)

(E) 體育研究所ニ關スル事項

體育研究所々長

北

豊

吉

體育研究所ハ東京府下代々幡町ニ於テ目下工事中ナルモ一九二四年十月研究室一部ノ竣成ヲ見一九二四年十月二十五日勅令第二百五十號ヲ以テ官制公布セラレ次テ十一月十九日ヲ以テ官制ニ依ル職員ノ任命了レリ。

一、設備ノ大要

本所ハ廣サ約一萬坪、土地高燥ニシテ空氣清ク閑靜ナリ、本館ハ鐵筋コンクリート二階建、正面三十七間、延坪約七百坪ヲ算ス研究室トシテ解剖、生理、病理、化學、衛生、細菌、教育、哲學等ノ諸室、X光線室、藥品室、天秤室、器械標本室、圖書室等ノ附屬室ヲ有シ、且ツ指導ノ爲講堂ヲ具ヘ其他所長室以下所員ノ居室、事務室、會議室、應接室等ヲ有シ地下室ニ汽罐室アリ、目下工事中ニシテ一九二五年十月完成ノ豫定ナリ。

「ヂムナジウム」ハ本館ノ西方ニ在リ廊下ニヨリ本館ト連リ「運動實際ノ研究室兼指導室タリ」木造コンクリート張一階建延坪數百五十坪ヲ算ス、研究室ノ廣サ八十六坪、牀上梁マテノ高サ三間二尺、屋根、窓、牀、煖室、照明等ノ設備ニハ相當意ヲ用キタリ。

之ニ各種ノ運動器械十二種ヲ備付ケ爾餘ノ運動具ハ連接セル器具室ニ收ム、更衣室男女各一室、浴室男女各一室及ヒ觀覽席ヲ附設ス、目下電燈、器械等内部設備ノ取付中ナリ、本年度ニ於テ使用ノ豫定ナリ其他附屬家屋トシテ二階建及ヒ平家(動物舎)ノニアリ。

屋外ノ設備トシテハ本館ノ北手ニ三五〇米ノ「トラック」及ヒ「フキールト」竝ニ「スウインミングプール」、西方ニハ小運動場、東方ニ庭球場等ヲ明年度以降ニ於テ設クル豫定ナリ。

二、職員

職員ハ現在左ノ如クニシテ専任技師二名、専任助手二名、兼任書記一名、囑託二名ト他ニ兼任技師二名アリ内一名ハ小職ニシテ本所長タルト共ニ一面ニ於テハ文部省學校衛生課長ノ職ニ在リ。

所長

専任技師(醫學)

専任技師(體操、水泳、競技)

兼任技師(遊藝、飛技)

専任技師(解剖學)

専任助手(心理學)

書記

ニシテ爾餘ノ職員ハ一九二五年度以降ニ於テ任命セラルヘク完成ノ曉ハ所長一、技師八、助手一一、書記三トナル豫定ナリ。

三、事業

本所ノ事業ハ概ネ左ノ四種ニ分ツヲ得ヘシ

- 1、研究
- 2、指導教授
- 3、質疑應答
- 4、出版

(一) 研究

(A) 研究ノ方針

本所ニ於ケル研究ノ方針ハ大學ノ如キ純學問的機關ニ於ケルモノト左ノ諸點ニ於テ異ナルモノアリ

(a) 綜合研究ヲ行フコト、即チ一ツノ體育問題ニ對シ各部方ヲ協セテ研究ス

(b) 研究ヲ全然學者ノ任意ニ行ハシムルコト能ハサル場合アルヲ豫期ス、即チ監督官廳又ハ社會ノ要求ニ應シ學者自身トシテハ困難トシ又ハ好マサルコトニテモ研究ス

(c) 研究ハ徒ラニ學術上ノ興味ニ捉ラハレサルコト、即チ研究事項カ學問上平凡ナルモノト見ラル、モ一般社會ノ參考トナリ社會ヲ裨益スルモノアラハ該研究ニ着手ス、又純粹ニ學問ノ蘊奧ヲ究ムルニ興味アル問題アリト假定スルモ我國體育ノ現狀ニ照シテ急ヲ要セスト認メラル、モノハ後廻シトス

要スルニ學術ト通俗ト歩ヲ並ヘテ社會ノ要求ニ應シテ研究ヲ進ムル考ヘナリ、世上斯種ノ事業ニ對シテハ學者ハ學術的研究ノ尠ク通俗平凡ナルヲ非難シ一般社會ヨリハ理論ニ偏スルモノトシテ難セラレ易シト雖モ、本所ノ目的ヲ達センニハ宜シク學俗兩面ヲ適當ニ顧慮シテ進ム豫定ナリ。

尙ホ本所ニ於テハ單ニ學術上ノ研究ノミナラス内外ノ事情或ハ統計等所謂調査ト稱セラル、モノヲ行フ。

(B) 研究ノ方法

研究ハ出來得ル限り本所ノ内ニテ之ヲ行フモ又必要ニ應シテ各種ノ男女長幼ノ階級ノ學校ニ於テ研究スルコトアリ、或ハ會社、工場、商店、青少年團又時トシテ陸海軍ニ赴キテ研究センコトヲ期シ居レリ。由來日本ニ於ケル趨勢トシテ只管歐米ノ事物ニ眼ヲ注キ國柄ヲ深く考フルコトナク速カニ之ヲ輸入實行セントスルノ弊アリト信ス、然レトモ我カ體育問題ハ日本國民ノ體育ナラサルヘカラサルヲ以テ日本固有ノ

體育運動アリ、固有ノ風俗、習慣アリ、固有ノ經濟狀態アリ、其他地勢、人口、產業等固有ノ環境アリ、之ヲ以テ本所ニ於テハ古今ヲ通シテ我カ國民特有ノ體育方法ニツキテハ國際事情ヲモ考慮シテ有ラユル力ヲ注キテ研究センコトヲ期シツ、アリ、尙ホ本所ニ於テハ運動ノ形式、「レコード」等ノ技術ソノモノニツキ研究スルモ之ニ捉ハル、コトナカラシコトヲ期ス、何トナレハ是等ハ體育上一ツノ手段ニシテ最終ノ目的ハ體育上優秀ナル結果ヲ舉クルコトナルヲ以テ是等ニ關シテハ所員ハ十分ニ心得テ研究ヲ進ムル考ナリ。

(二) 指導教授

本所ニ於テ調査研究セル結果ヲ發表スルノ必要上又社會ニ於テ缺ケ居ルコトニ對シテハ特ニ指導教授ヲ行ハントス、之レ本所官制第一條ニ明記セラル、所ナリ、其ノ方法種々アリト雖モ當分左ノ方法ニヨラントス。

1、出版物

研究所自ラ出版物ヲ編著シテ各地ニ頒布シ或ハ雜誌ニ掲載シ或ハ單行本トシテ實費ニテ販賣セシムルコトアリ、或ハ「ポスター」ヲ用フルコトアリ

2、講習會

所内ニ於テ短期、長期ノ講習會ヲ開催シ、又ハ所員地方ニ出テ、講習ヲ行ヒ指導教授スルコトアリ、講習員ハ或ハ教育家ニ求ムルコトアリ、或ハ一般ニ求ムルコトアリ、或ハ男子、女士等種々目標ヲ定

ムヘシ

3、講演會

各地ニ於テ適宜ノ問題ニツキ適宜ノ機會ニ於テ講演會ヲ行フ

4、運動ノ「コーチ」

我國ニ於テハ目下「コーチ」ノ不足ニ關シ到ル處其ノ聲ヲ聞クヲ以テ成シ得ル限り此方面ニ力ヲ注カント欲ス

(三) 質疑應答

各地ニ於ケル「ヂムナシアム」、「プール」等ノ設計、各團體ニ於ケル教案ノ選擇、年齢、體質、性等ニ應スル體育法ノ選定等種々ナル質款ニ應シテ答解セントス。

(四) 出版

指導教授ノ目的以外適宜權威アル出版物ヲ刊行セントス。
以上本所ノ諸事業ハ本所豫算及ヒ所員ノ關係ニテ多少ノ制限ヲ受クルコトアルモ、我國民體育充實ノ急務ナル現下ノ情勢ニ鑑ミ、所員一同最善ノ力ヲ盡サンコトヲ期シツ、アリ。

(一九二四年十一月三十日記)

都市計畫

四八二

內務省都市計畫課

一、沿革

都市ノ在ル所必ス都市計畫ナカル可ラサルハ論ヲ俟タサル所ニシテ我國ニ於テモ京都、大阪ノ如キハ一定ノ計畫ノ下ニ建設セラレタルノ跡歴然タルモノアルモ右ハ主トシテ街路系統ヲ定メタルニ過キスシテ都市全體ノ系統的計畫トシテハ見ルヘキモノナカリキ而シテ都市計畫ニ關スル本邦最初ノ立法ハ明治二十一年（一八八八年）勅令第六十二號ヲ以テ公布セラレタル東京市區改正條例ニシテ本條例ハ専ラ東京市區ノ産業、衛生、防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ルヲ目的トシテ制定セラレタルモノナリ。然ルニ近時一般都市ノ膨脹ハ極メテ顯著ナルモノアリ。殊ニ世界大戰ノ影響ヲ受クルニ及ンテ各種事業ノ勃興ニ伴ヒ工場ハ隨所ニ建設セラレ人口ハ増加シテ市外ニ溢レ市ノ近郊ハ交通ノ連絡、上地下水ノ設備ヲ缺ク等市ノ内外ヲ通シテ殆ント混亂ノ状態ニ陥ルニ至レリ、茲ニ於テ大正七年（一九一八年）四月法律第三十六號ヲ以テ其ノ發展ノ特ニ急激ナリト認メラルル京都、大阪、横濱、神戸及名古屋ノ五大都市ニ對シ東京市區改正條例ヲ準用スルノ途ヲ開キ更ニ大正八年（一九一九年）四月從來ノ東京市區改正條例ヲ廢止シ之ニ代フルニ都市計畫法ヲ制定シ以テ交

通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ヲ市ノ内外ニ亘リ施行スルコトヲ得シメ大正九年一月之ヲ先ツ前記六大都市ニ適用シ超エテ大正十二年（一九二三年）七月ニ至リ之ヲ札幌市以下二十有五ノ中小都市ニ及ボシ大正十三年（一九二四年）六月更ニ富山市ヲ加ヘ以テ是等諸都市ニ於ケル各般ノ計畫事業皆一ノ脈絡系統ニ從ツテ規律セムコトヲ期シタリ。然ルニ前記ノ都市中東京及横濱ノ二市ハ大正十二年（一九二三年）九月一日ノ大震災災ニ因リ激甚ノ被害ヲ受ケテ大部分焦土ト化シ復タ舊態ヲ止メサリシヲ以テ爰ニ復興ノ必要ヲ認メ大正八年（一九二三年）十二月二十四日法律第五三號ヲ以テ特別都市計畫法ノ制定ヲ見、都市計畫法ト相俟テ右二市ニ之ヲ適用スルコト、ナセリ。

猶市街地ノ建築物ニ對シ一定ノ取締ヲ爲シ、秩序アラシムルハ保安上及衛生上ヨリ觀ルモ極メテ緊要ナルノミナラス都市計畫ト唇齒輔車ノ關係ニ在ルコト言ヲ俟タス、於茲大正八年（一九一九年）四月法律第三十七號ヲ以テ都市計畫法ノ姉妹法トモ謂フヘキ市街地建築物法ノ制定ヲ見、大正九年（一九二〇年）十二月一日ヨリ六大都市ニ之ヲ適用シタリ。

市街地建築物法及其ノ附屬命令中ニハ住宅衛生ニ關スル重要ナル規定ヲ包含ス即先ツ地域ノ制度ヲ設ケテ工場、倉庫等ノ建築物ニシテ衛生上有害ナル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ限り之ヲ建築スルコトヲ許シ（用途地域）又建築物ノ高ハ住居地域内ニ於テハ六十五尺（一尺=10 $\frac{1}{3}$ 0.303 metres）其ノ他ノ地域ニ於テハ百尺ヲ超過スルコトヲ許サス且建築物各部分ノ高ハ其ノ敷地ノ前面道路ノ幅員ニ依リテ更ニ制限ヲ加フルコト

トシ(高ノ地域)又其ノ建築面積ハ其ノ敷地面積ニ對シ住居地域内ニ於テハ十分ノ六、商業地域内ニ於テハ十分ノ八、其ノ他ノ地域ニ於テハ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得サラシメタリ(空地面積ノ地域)其ノ他防濕法ニ關スル規定ヲ設ケテ建築物ノ敷地ノ高、居室ノ床高、直接土壤ニ接スル壁體ノ部分及地盤面下ニ在ル居室ノ床ノ構造ニ付耐水材料ヲ用フヘキコトヲ規定シ、又下水溝、下水管、汚物溜ノ構造、汲取便所ノ構造、位置及其ノ井戸トノ距離、便所畜舎等ヨリ排出スル汚物ノ處理ニ付一定ノ制限ヲ設ケ又採光換氣ニ關スル規定ヲ設ケテ居室ノ天井高ハ七尺以上ト限定シ其ノ窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面積ハ其ノ室面積ノ十分ノ一以上ノ有效面積ヲ有セシメ、且直接外氣ニ面シテ室面積ノ二十分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ル設備タラシメ浴室便所ニ付テモ同シク採光換氣ノ設備ヲ命シ、防疫上必要ナル防鼠其ノ他ノ設備ニ付テハ地方長官之ヲ命スルコトヲ得シメタリ、而シテ市街地建築物法ハ六大都市ノミナラス其ノ他ノ中小都市ニ對シテモ之ヲ適用スルノ必要ヲ認メタルモ大都市同様ノ適用ヲ爲スハ嚴ニ過クルノ虞アルヲ以テ其ノ中主トシテ用途地域及建築線ニ關スル規定ノ適用ヲ爲スコトトシ猶都市計畫法ノ適用ヲ見サル市街地ニモ之ヲ適用シ得ルノ途ヲ開キ以テ其ノ街路計畫ヲ實行シ都市計畫ノ實ヲ舉ケムコトヲ期シタリ。

二、都市計畫ノ現狀 大正十四年(一九二四年)一月廿六日現在

(1) 都市計畫法適用都市

東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市、名古屋市、(大正九年(一九二〇年)一月一日ヨリ施行、但東京及橫濱ニ付テハ大正十二年(一九二三年)十二月二十四日ヨリ特別都市計畫法ヲ併セ施行)
 札幌市、小樽市、函館市、堺市、尼崎市、長崎市、新潟市、豊橋市、静岡市、濱松市、岐阜市、仙臺市、金澤市、岡山市、廣島市、吳市、下關市、福岡市、門司市、小倉市、若松市、大牟田市、八幡市、熊本市、鹿兒島市、(大正十二年(一九二三年)七月一日ヨリ施行)
 富山市、(大正十三年(一九二四年)六月一日ヨリ施行)

(2) 都市計畫區域

都市名	決定年月日	区域内市町村	同面積	
東京	大正十一年(一九二二年)四月廿四日	一市八十四ヶ町村	一六九、〇七二、一〇六坪	
京都	同	八月五日	一市三十六ヶ町村	七二、一五九、九〇〇
大阪	同	四月廿四日	一市五十五ヶ町村	六三、四三九、四二八
橫濱	同	四月廿四日	一市十三ヶ町村	四八、二六四、六六〇
神戸	同	四月廿四日	一市九ヶ町村	四〇、二四七、〇〇〇
名古屋	同	七月五日	一市二十ヶ町村	四九、一〇六、四一五
豊橋	大正十四年(一九二五年)一月八日	一市五ヶ町村	二五、六六八、六七〇	

岐 阜 大正十三年(一九二四年)十二月四日 一市七ヶ町村 一五、二九四、二三八
 岡 山 同 十二月六日 一市六ヶ町村 一四、八四一、〇〇〇
 廣 島 大正十四年(一九二五年)一月十六日 一市七ヶ町村 一七、五一七、八一六

(3) 市街地建築物法適用區域

- 一、東京都市計畫區域内 東京市外三十六ヶ町村 大正九年(一九二〇年)十二月一日ヨリ施行
 大正十一年(一九二二年)九月一日ヨリ施行
 大正十二年(一九二三年)十一月一日同
 - 二、京都市計畫區域内 京都市外五ヶ町村 大正九年(一九二〇年)十二月一日同
 大正十三年(一九二四年)二月一日同
 - 三、大阪都市計畫區域内 大阪市外五十五ヶ町村 大正九年(一九二〇年)十二月一日同
 大正十三年(一九二四年)四月一日同
 - 四、横濱都市計畫區域内 横濱市 大正九年(一九二〇年)十二月一日同
 - 五、神戸都市計畫區域内 神戸市外八ヶ町村 大正九年(一九二〇年)十二月一日同
 大正十一年(一九二二年)十月一日同
 - 六、名古屋都市計畫區域内 名古屋市 大正九年(一九二〇年)十二月一日同
- (4) 防火地區指定
- 一、東京都市計畫防火地區 大正十一年(一九二二年)九月一日ヨリ施行
 - 二、京都市計畫防火地區 大正十一年(一九二二年)十二月一日ヨリ施行

- 三、大阪都市計畫防火地區 大正十二年(一九二三年)十月一日ヨリ施行
- 四、横濱都市計畫防火地區 大正十一年(一九二二年)九月一日ヨリ施行
- 五、神戸都市計畫防火地區 大正十二年(一九二三年)二月十一日ヨリ施行
 大正十二年(一九二三年)七月一日ヨリ施行
 大正十三年(一九二四年)二月十五日ヨリ施行
- 六、名古屋都市計畫防火地區

(5) 地域指定

- 一、東京都市計畫區域内地域及特別地區 大正十四年(一九二五年)二月十五日ヨリ施行
- 二、京都市計畫區域内地域 大正十三年(一九二四年)四月一日ヨリ施行
- 三、神戸都市計畫區域内地域 大正十三年(一九二四年)十一月一日ヨリ施行
- 四、名古屋都市計畫區域内地域 大正十三年(一九二四年)十一月十五日ヨリ施行

三、都市計畫及事業ノ現狀

東京ノ部

種 別 要 領

○街路ノ新設擴張及河川運河ノ新鑿 大正十年(一九二二年)五月十三日決定、街路八〇六線、河川運河
 改修埋立事業 十一線

○街路ノ新設、改修及運河新鑿改修事業

大正十年(一九二一年)五月十三日變更決定ヲ以テ街路中廿二線、河川運河四線ヲ削除ス
大正十年度(一九二二年)ヨリ大正二十三年度(一九三四年)迄繼續執行

大正十三年(一九二四年)三月十一日決定、街路五十三幹線、百二十二補助線、運河十二線

大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄六ヶ年度繼續執行

○運河埋立並改修事業

大正十三年(一九二四年)四月三十日決定、埋立延長三七四米、改修延長五四五米

○土地區劃整理施行

大正十三年度(一九二四年)執行

大正十三年(一九二四年)三月十九日決定、東京市内十一區及近接四ヶ町ニ亘リ總面積九、三三九、四二五坪

大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十六年度(一九二七年)迄五ヶ年度繼續執行

○土地區劃整理ニ依ル街路ノ新設及改修

大正十三年(一九二三年)三月三十一日決定

新設延長 一九六、八九〇米

改修延長 二六二、六一四米

大正十三年(一九二三年)三月三十一日決定

三公園新設、面積一一、〇〇〇乃至三二、〇〇〇坪ノ合計六一、〇〇〇坪

大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄六ヶ年度繼續執行

大正十三年(一九二四年)七月二日決定

五十二小公園新設、各面積六〇〇乃至一、六〇〇坪

大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄五ヶ年度繼續執行

大正九年(一九二〇年)三月三十一日變更決定

大正二年度(一九一三年)ヨリ同十七年度(一九二八年)迄十六ヶ年繼續執行

○小公園新設事業

○東京市上水道擴張工事

○東京府下水道設計第二區工事

四九〇

大正十三年(一九二四年)十二月二十四日變更決定

區域淺草ノ全部及下谷神田本郷ノ一部

面積約 二、四九五、〇〇〇坪

延長 九八、〇〇〇間

明治四十四年度(一九一一年)ヨリ大正十三年度(一九二四年)迄十
四ヶ年度繼續執行

大正十三年(一九二四年)四月一日決定

第二區ニ屬スル一部復舊事業

大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十三年度(一九二四年)迄二ヶ
年度繼續執行

大正九年(一九二〇年)十二月八日決定

麴町區丸ノ内、日本橋區京橋區ノ全部

神田區及芝區ノ一部

面積約 二、六六三、〇〇〇坪

延長 四七一、八六〇尺

○下水道復舊事業

○東京市下水道第二期事業

延長 四七一、八六〇尺

大正九年度(一九二〇年)ヨリ大正十六年度(一九二七年)迄八ヶ年

繼續執行ノ處大正十二年度(一九二三年)ヲ以テ打切ル

大正十三年(一九二四年)十二月二十四日決定

前記二期事業ノ復興事業トス

大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄五ヶ

年度繼續執行

大正十年(一九二二年)十二月十四日決定

墓地面積約 五〇、〇〇〇坪

火葬場面積約 五、〇〇〇坪

○墓地火葬場新計畫

京都ノ部

種別

○道路新設及擴築事業

要

領

大正十年(一九二二年)八月十一日決定
十五路線

大正十年度(一九二一年)ヨリ大正十九年度(一九三〇年)迄十ヶ年
度繼續執行

大阪ノ部

種別

要

領

○街路新設及擴張事業

大正十三年(一九二四年)十一月二十九日變更決定
四十一路線(橋梁八十二)
大正十年度(一九二一年)ヨリ大正二十二年度迄(一九三三年)十三
ケ年度繼續執行

○下水道事業(第一期)

大正十一年(一九二二年)六月三日決定
面積約 七六、八三〇坪
延長 二七、二〇三間

大正十一年度(一九二二年)ヨリ大正十三年度(一九二四年)迄三ケ
年度繼續執行

○下水道事業(第二期)

大正十三年(一九二四年)五月二十九日決定
面積約 五三五、四七一坪
延長 三三、〇一五間

横濱ノ部

種別

要

領

○街路新設改修事業

大正十三年(一九二四年)三月三十一日決定
二十一路線
大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄六ケ
年度繼續執行

○運河改修事業

大正十三年(一九二四年)十二月二十四日決定
延長約 四、七八〇米
大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄五ケ
年度繼續執行

○土地區劃整理施行

大正十三年(一九二三年)七月二日決定
面積約 八二八、〇〇〇坪

○土地區劃整理ニ依ル街路ノ新設、改修

大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十六年度(一九二七年)迄四ケ年度繼續執行

大正十三年(一九二四年)七月二日決定

新設延長 四六、九三八米

改修延長 三九、六〇〇米

大正十四年(一九二五年)一月二十三日決定

三公園新設 面積約四、〇〇〇乃至二一、〇〇〇坪

大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄五ケ年度ニ繼續執行

神戸ノ部

種別

要

領

○道路ノ新設及擴張事業(第一期)

大正八年(一九一九年)十一月二十四日決定

九路線

大正八年度(一九一九年)ヨリ大正十三年度(一九二四年)迄六ケ年

○道路ノ新設及擴張事業(第二期)

度繼續執行

大正十三年(一九二四年)二月二十八日決定

三路線

大正十二年度(一九二三年)ヨリ大正十四年度(一九二五年)迄三ケ年度繼續執行

大正十一年(一九二二年)十一月十六日決定

名古屋ノ部

種別

要

領

○街路新設及擴張事業(第一期)

大正八年七月二十八日決定

六路線

大正八年度(一九一九年)ヨリ大正十三年度(一九二四年)迄六ケ年度繼續執行

大正十三年(一九二四年)十二月九日決定

○同上(第二期)

一路線

○運河新設及建築敷地造成事業

大正十三年度(一九二四年)ヨリ大正十四年度(一九二五年)ニ至ル
二ヶ年度ニ繼續執行

大正十三年(一九二四年)十一月十七日決定

運河延長約 三千五百十五間

建築敷地約 三十二萬五千二百五十坪

大正十三年(一九二四年)度ヨリ大正十七年度(一九二八年)迄五ヶ
年度繼續執行

大正十三年(一九二四年)六月九日決定

○街路及運河新設計畫

大正十五年二月二十五日印刷
大正十五年二月二十八日發行

內務省衛生局

東京市小石川區戸崎町九十四番地

印刷者 星 澤 勝 平

東京市小石川區戸崎町九十四番地

印刷所 秀飯舍印刷所

